

## 6 循環型社会への取り組み

### 廃棄物排出量実績

事業活動における、2015年度の排出量は、生産事業本部全体で、695,716 kg（前年度比：+4.0%）で4.0%増加しました。内訳は、富山工場で523,537kg（前年度比：+17.7%）で17.7%の増加、富山第二工場では、38,115kg（前年度比：-15.0%）となりました。

産業廃棄物増加の要因として、生産事業本部の廃棄物量については、減少しましたが、使用期限切れ商品の廃棄が約100,000 kg増加となりました。

また、今までの産業廃棄物に加え、前期より引き続き、生産事業部共通の排出物として（一般廃棄物、有価物、リサイクル品）について調査を開始しました。総排出量と埋立て量を確認することで、また、排出の種類についても調査し来期以降埋立て率での評価についても、課題としています。

※富山第二工場は2012年よりサイト拡大と共に対象となった為、前年度数量より記載

※共通項目（一般廃棄物、リサイクル品、有価物）については、2013年より集計を開始

### ■総排出量と総再資源化量

2015年度

|        | 生産事業本部          | 富山工場            | 富山第2工場         | 共通項目<br>(一般廃棄物/リサイクル) |
|--------|-----------------|-----------------|----------------|-----------------------|
| 総排出量   | 695,716         | 523,537         | 38,115         | 134,064               |
| 再資源化量  | 132,738 (19.1%) | 40,844 (7.8%)   | 5,106 (13.4%)  | 86,788 (64.7%)        |
| 減容化量   | 470,319 (67.6%) | 408,528 (78.0%) | 19,239 (50.5%) | 42,552 (31.7%)        |
| 最終処分量  | 92,663 (13.3%)  | 74,165 (14.2%)  | 13,770 (36.1%) | 4,728 (3.5%)          |
| 総再資源化量 | 603,057 (86.7%) | 449,372 (85.8%) | 24,345 (63.9%) | 129,340 (96.5%)       |

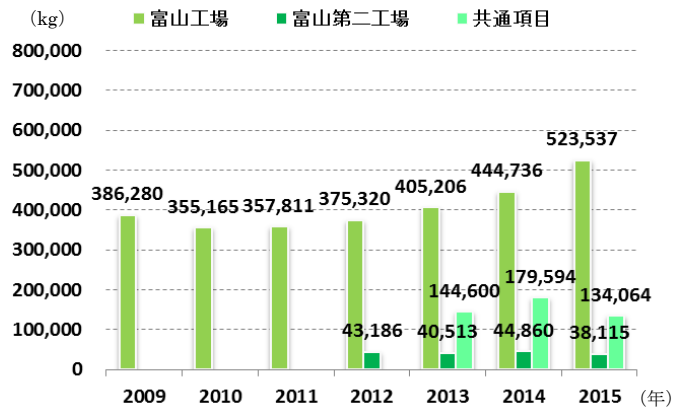
※再資源化は固形燃料化及び選別により再利用が可能となるもの、減容化は廃棄物中間処理施設等で最終埋め立てされる量が減量された総量を示し、その合計量を総再資源化量としております。

※ ( ) 内の数値は総排出量に対する各量の比率を表す。

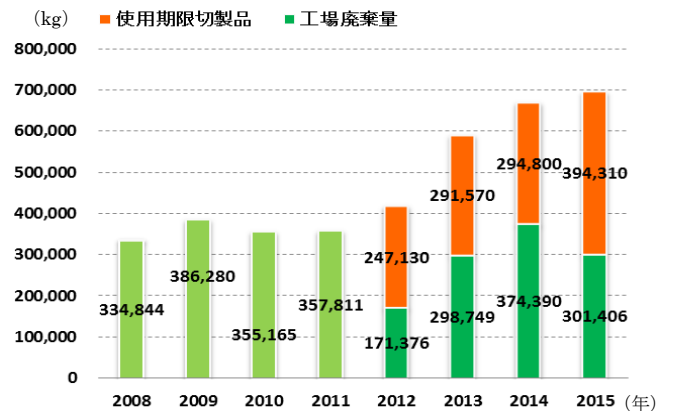
生産事業本部の総排出量は695,716kgであり、再資源化量と減容化量を合算した総再資源化量は603,057kg(86.7%)、最終処分量92,663kg(13.3%)となりました。

前年度の最終処分量が82,757kg(12.4%)であることから、総排出量、埋め立て量共に増加

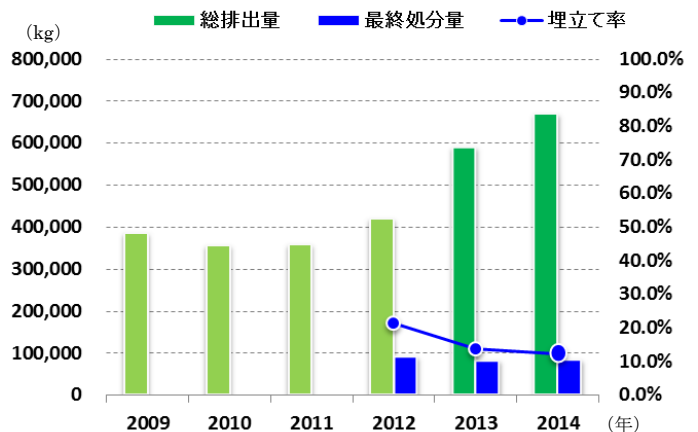
【廃棄物排出量】



【廃棄物排出量（内訳）】

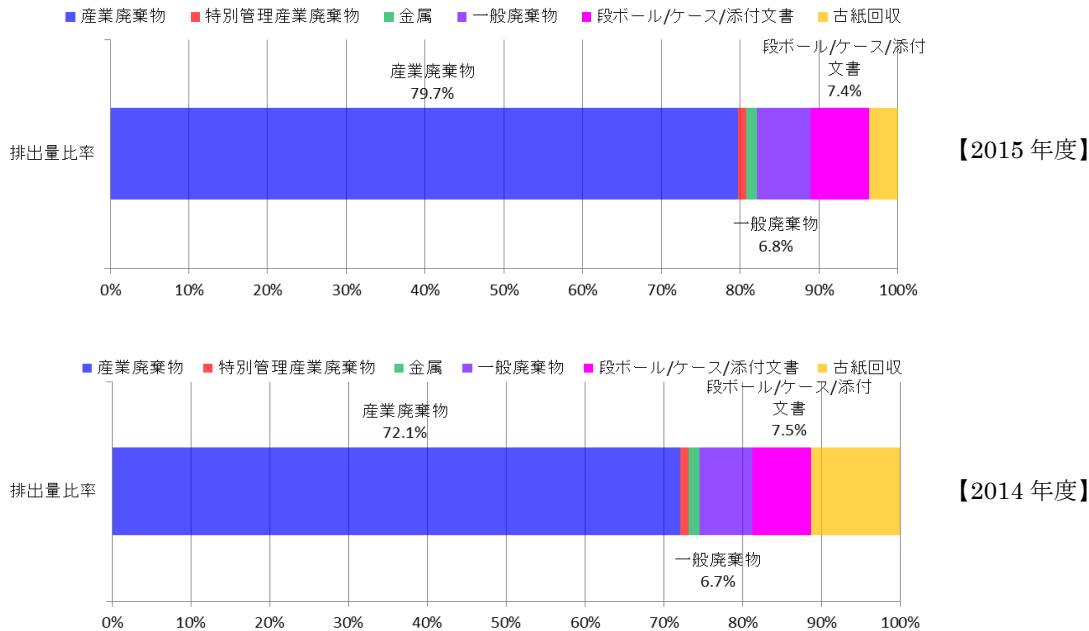


(kg)



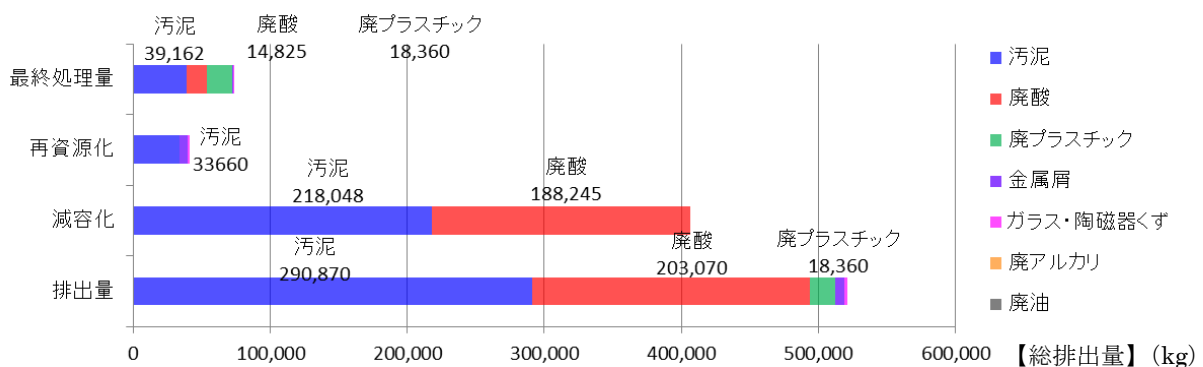
しています。

生産事業本部全体での、産業廃棄物、一般廃棄物、リサイクル品（ケース、段ボール等）の比率については、産業廃棄物 79.7%、特別管理産業廃棄物 1.1%、一般廃棄物 6.8%、有価物（金属）1.4%、リサイクル品（段ボール、ケース）7.4%、リサイクル品（古紙）3.7%であり、全体の約 90%が廃棄物として処理がされました。2014 年度と比較すると、廃棄物量の増加に伴い産業廃棄物の排出の割合も増加しました。

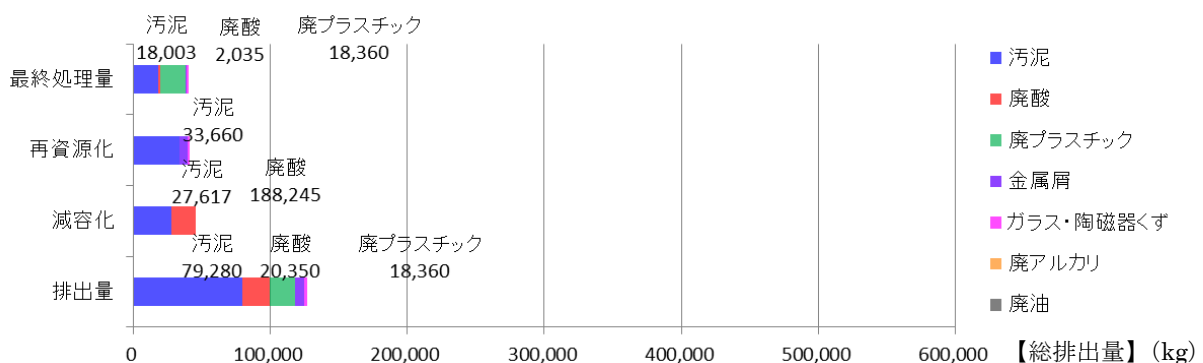


廃棄物増加の要因は、使用期限切れ商品が主なものであり富山工場において、使用期限切れ商品を除外すると排出量の約 1/4 の量が純粋な排出量でした。しかし、最終処分量の大きな減少は見られませんでした。このことから富山工場から排出される、脱水汚泥（排水処理施設から出る汚泥）とプラスチック類といった廃棄物に関して減容化やリサイクルがなされていないことが分かりました。これらについて廃プラスチック類のリサイクルを課題として今後取り組んでいく必要があります。

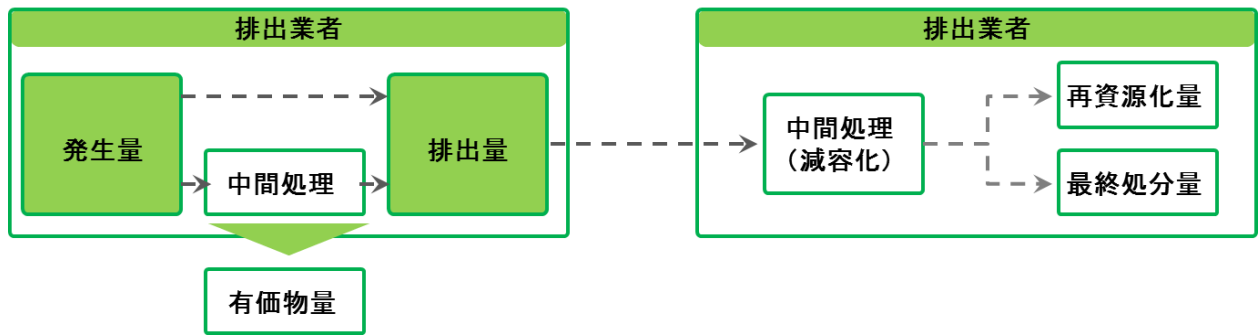
【富山工場全体の排出量等】



【使用期限切れ商品を削除した時の排出量等】



## 廃棄物フロー図



$$\text{総再資源化率} = (\text{再資源化量} + \text{減容化量}) / \text{総排出量}$$

廃棄物一時保管場所

### ■廃棄物の管理

委託業者については、今年度（2015年）中間及び最終処理業者とリサイクル業者を訪問し、処理工程や保管状況の確認に加え、マネifest等、契約書等の書類審査を実施し、適切に処理が行われていることを確認しました。また、リサイクルの積極的な導入を考慮し、リサイクルの可能な処理業者についても訪問し処理状況やリサイクル可能品目について確認を実施しました。来季以降も定期的な訪問、また、新規処理業者等の使用時に調査を行うことにより、さらに質の高い管理を目指しています。



また、廃棄物業者訪問後は環境保全委員会等の場で各委員への情報の共有化を図ることで今後の活動へと繋げることを継続して実施します。

リサイクル業者訪問

最終処分場処理業者訪問



### ■ケース添付文書のリサイクル

今期より、ケース、添付書類のリサイクルを開始し、7,500kgのリサイクルを行いました。また、昨年より継続して、古紙回収業者によるリサイクルを実施しており、2015年は古紙で25,600kg、段ボール類で43,770kgのリサイクルを実施しました。

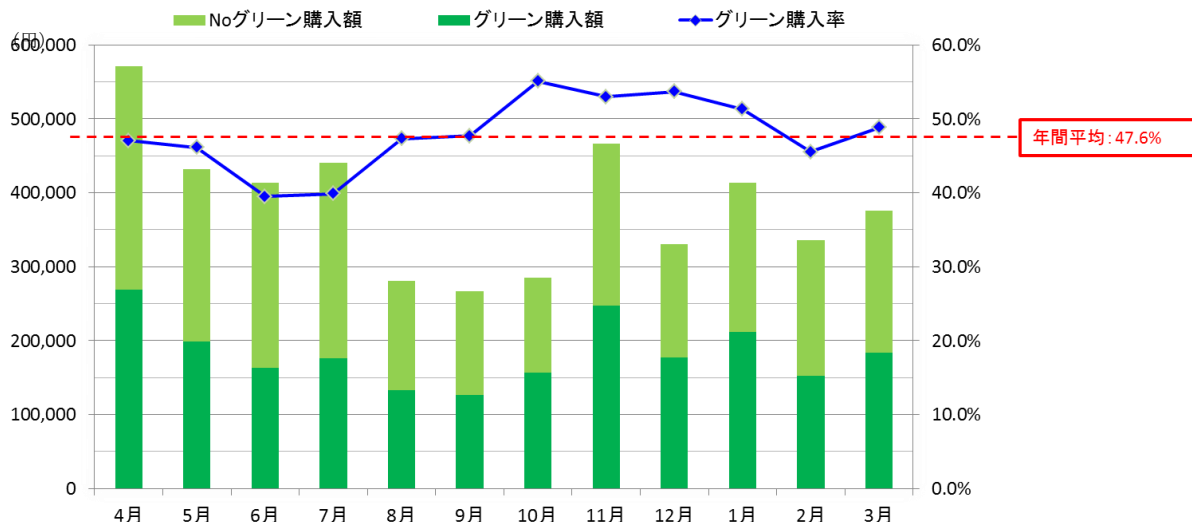
### ■金属等の有価物化

金属等の有価物については、2015年度で9,914kgとなりました。

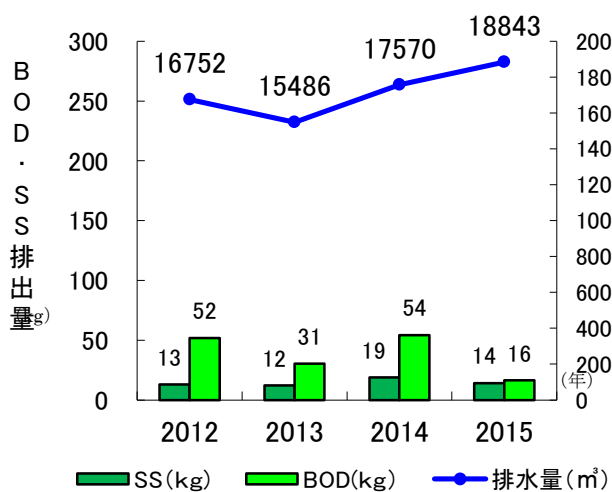
## グリーン購入

製品やサービスを購入する際に環境を考慮し、必要性を良く考え環境の負荷ができるだけ少ないものを選定することの推進を行ってきました。前期は、グリーン購入品目がどれくらいの割合で購入されているかモニタリングを実施し、グリーン購入率として47.6%となりました。

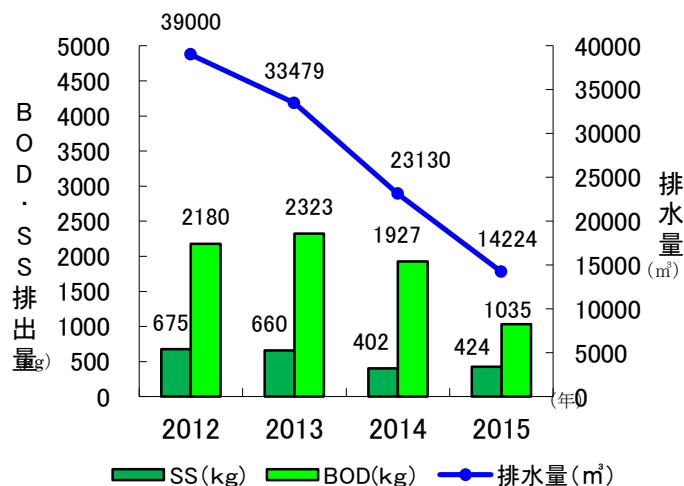
この数値をベースとして、来年以降の目標値を設定し新たな取り組みの一つとしていきます。



## 水系への排出抑制



富山工場



富山第二工場

### ● 富山工場

事業活動における年間排水量は18,843m<sup>3</sup>（前年度比：+7.2%）、BOD（生物学的酸素要求量）排出量は16kg（前年度比：-70.4%）、SS（浮遊物質）排出量は14kg（前年度比：-26.3%）でした。

2011年に廃水処理装置の更新を行い、オゾン旋回噴流システムを導入して公共水域への負荷軽減を図っています。

### ● 富山第二工場

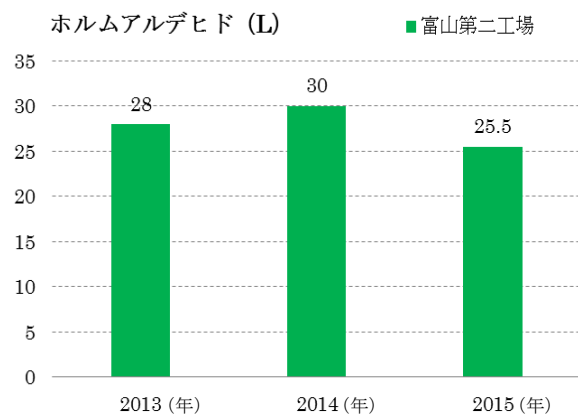
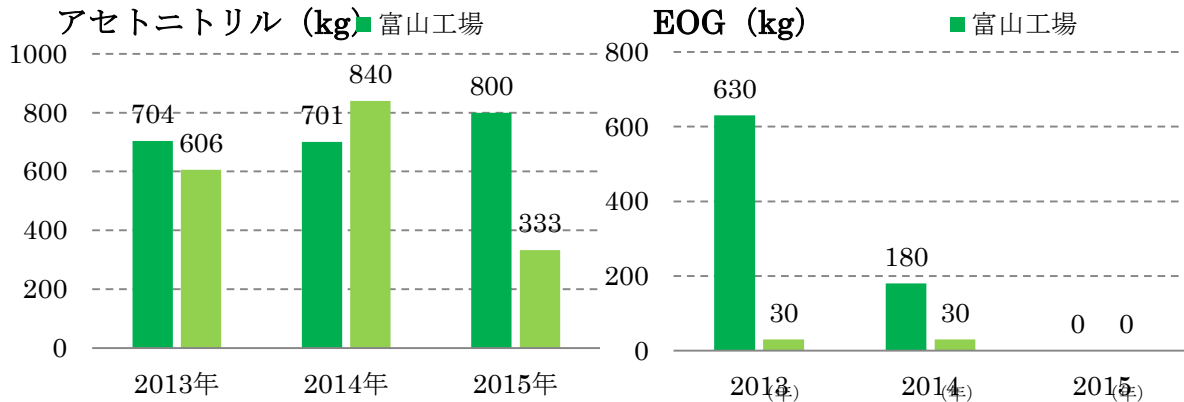
事業活動における年間排水量は14,224m<sup>3</sup>（前年度比：-38.5%）、BOD排出量は1,035kg（前年度比：-46.3%）、SS排出量は424kg（前年度比：+5.5%）でした。公共下水道への排水がほとんどになります。排水経路にPH調整装置を導入し、pH安定化を図っています。

※排水量は下水と排水の合算値



## 化学物質の管理

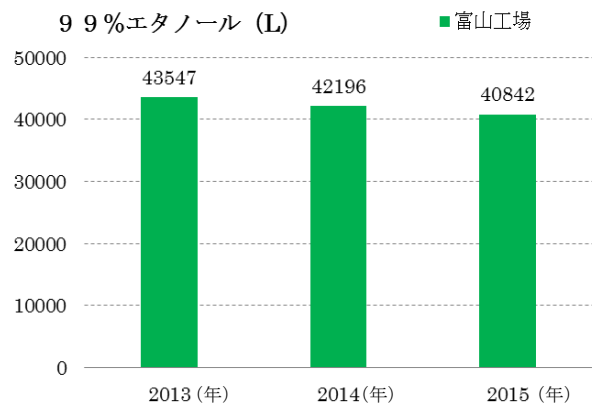
### 化学物質使用量(PRTR法)



事業活動における、2015年度の化学物質使用量は、アセトニトリルは富山工場で800kg、富山第二工場で333kg。EOGは富山工場、富山第二工場共に使用する工程がなくなった為、0kgとなりました。ホルムアルデヒドは、富山第二工場で25.5Lとなりました。

### アルコール使用量(アルコール事業法)

事業活動における、2015年度のアルコール使用量は、99%エタノールで富山工場40,842L（前年度比：-3.2%）、となりました。



## 社会とのコミュニケーション

2015年度は近隣住民からの苦情はありませんでした。今後も苦情が出ないように、注意を払っていきます。

## 安全衛生パトロールの実施

富山工場、富山第二工場では快適な職場環境づくりを目指し、各部門より立場の異なる所属長、社員混合で編成された10チームが毎月安全衛生パトロールを実施しております。

指摘のあがった箇所は各部署にて対応の上、安全衛生委員会で結果を報告、部署で対応できないものについては協議し、さらなる災害防止に努めています。

以下に改善の事例をご紹介します。

### 《富山工場物流センター2F 自動倉庫》

#### 改善前



#### 【パトロール者からの指摘】

棚卸時、棚から資材を呼び出し、ロット等を覗き込んで目視確認しているようですが、3階相当の高さがありますので、大変危険です！人が転落しない対策をお願いします！！

#### 改善後



#### 【対策・改善】

安全柵設置は大掛かりな作業となるため管轄部署のみでの対応が難しいということで、安全衛生委員会で取上げ、設置する運びとなりました。

## メンタルヘルスへの取り組み

年に一度、全社員を対象として、専門家を招いてメンタルヘルスに関する講演を実施しています。2015年度は「働く人のためのメンタルヘルス」と題してストレスへの向き合い方、対処法、うつ病を疑うサインなど予防の観点から講演を行っていただきました。

また、ストレスチェック制度導入にあたって安全衛生委員会の場で、制度の詳細・導入の手順などの教育を行いました。

この報告書に関するお問い合わせ先

(株)富士薬品 富山工場 ISO 事務局  
〒939-2721 富山県富山市婦中町板倉 682 番地  
TEL ; 076-465-3240 FAX ; 076-465-3241

報告書発行年月 : 2016 年 12 月